

## 土曜授業推進事業に係る実践報告書

## 桑名市教育委員会

## &lt;所在地&gt;

〒511-8601 桑名市中央町2-37

TEL (0594) 24-1240 (指導課)

E-mail guidance@city.kuwana.lg.jp

## I 研究のねらい

外部人材の活用など、土曜日等に授業を実施することの利点を活かした実践的な研究を行い、効果的な指導方法やモデルカリキュラムの開発等を行うことで、市内全体においてより質の高い土曜授業を実施すること。

## II ねらい達成のための方策

土曜授業に学力向上や防災教育に関する外部講師を招聘し、土曜日の利点を活かした魅力的な授業を展開する。また、土曜授業カリキュラム等検討委員会及び長島防災プロジェクトにおいて、防災教育の側面から土曜授業がもたらす効果について、保護者及び地域、関係諸団体への理解促進を図る。

## III 研究の概要

本市は、学力の定着や豊かな人間性の育成などを推進するとともに、開かれた学校づくりの推進を目指して家庭・地域との連携を一層深めるため、平成26年度より土曜日を活用した教育活動に取り組んできた。また、平行して「土曜授業検討委員会」を立ち上げ、平成27年度以降の土曜日の在り方について検討を重ねてきた。

本年度の実施にあたっては、より質の高い土曜日の授業の実施に資するため、外部人材等の活用など、土曜日等に授業を実施することの利点を生かした実践的な研究を行い、効果的な指導方法やモデルカリキュラムの開発などを検討材料とする。

そのため、土曜授業の授業実践校を指定し、各学校や地域の状況に応じた土曜授業の取組の成果と課題を検証するとともに、特に過去3年間にわたり中学校区で大切にしてきた実践的な学校防災・防災教育と安全な学校づくりの側面から、現行教育課程を充実させる方策を探っていく。

## IV 具体的な取組・実践例

## 1 (1) 長島中学校の実践

日頃から自助、共助の意識を高めておくことで、有事の際に主体的な支援者となることを目的として「防災プロジェクト」を開催した。「災害発生 わたしたちにできることは」をテーマに三重大学宮岡教授及び浅野准教授による講演会、長島防災支援ネットの方にサポートを受けながら避難所設営体験を実施した。事後の生徒の感想には、水に対する意識の変化を伺わせるものや、中学生としてできることは何かと考えるものなど、防災に対する意識の変化が伺えるものが見られた。

## (2) 長島北部小学校の実践

津波や水害に対する意識を高めることを目的として、校区内のタウンウォッチングを実施した。縦割り班で活動を行い、「安全に配慮したもの」「危ないもの」について見つけ、見つけたものについて話し合う活動を行った。また、各グループには長島防災支援ネットの方にサポーターとして入ってもらうことで、子どもの気づきを促すことができた。

## (3) 長島中部小学校の実践

長島防災支援ネットの方を講師として招聘し、液状化実験に関する出前授業を実施した。模型を使用し、視覚的に訴える内容であり、多くの児童が液状化が起こる仕組みについて興味を持ちながら話を聞くことができた。

## (4) 伊曾島小学校の実践

就実大学楠准教授を招聘し、算数の出前授業を実施した。「あなたのマークを当てます」という子どもにとって引きつけられる導入から始ま

り、かけ算の分配法則の理解につなげるという非常に魅力的な授業を展開してもらった。日頃算数への関心がそれほど高くない児童も、ゲーム性があるワクワクする導入によりしっかりと授業に向かうことができた。「子どもたちに付けたい力は何か」という所からスタートした上で、いかに子どもたちにとって魅力的な課題を与えることができるかが大切であることを改めて確認することができた。

## 2 カリキュラム等検討委員会の開催

三重大学宮岡教授を座長としてカリキュラム検討委員会を3回実施した。委員会の中では、各校における土曜授業に対する児童生徒アンケート結果をもとに「土曜授業の充実に向けて」というテーマで話し合いを持った。保護者や地域の方からは、「土曜日だからこそできることをやるとよい」「保護者や地域と一緒に取り組みやすいものを実施してほしい」「長島という地域性から防災は外せない」といった意見が出された。

## 3 長島防災プロジェクトの開催

保護者、地域の方、学校関係者を対象に長島防災プロジェクトを開催した。プロジェクトにおいては、それぞれの視点から土曜授業や長島の防災教育を充実させるためには何が必要かについて、意見を出し合った。また、三重大学講師及びさきもり塾卒業生、木曾川下流河川事務所、NEXCO 中日本、桑名市役所防災危機管理課の方をアドバイザーとして招聘し、専門的な視点から助言をいただくことで、参加者の理解が深まった。

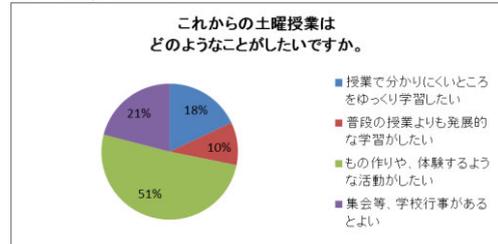
# V 研究成果の検証

## 1 検証方法

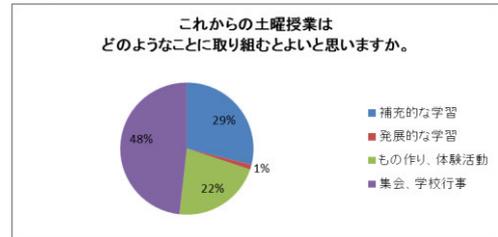
児童生徒及び教職員に対して、前期と後期の2回に分けて土曜授業に関するアンケートを実施し、学校ごと及び学校間の比較を行うことにより土曜授業の質を向上させる方策を探る。

## 2 検証結果

### <児童生徒アンケート>



### <教師アンケート>



アンケート結果からは、児童生徒は体験活動や学校行事を求めていること、教職員は補充的な学習を求めていることを読み取ることができた。

### (1) 成果

実践推進校における取組を通して、土曜授業においては外部人材の活用や、保護者及び地域の方との連携を積極的に行うことが、児童生徒にとって意欲的に取り組めるポイントであることが見えてきた。

### (2) 課題

学力向上に関すること、防災教育に関すること、どのようなテーマで取組を進めるにしても外部人材をいかに確保するかが重要である。児童生徒にとって魅力的な土曜授業を展開するためにも、各校における地域等との連携を一層充実させていく必要がある。

# VI 次年度の取組方針

長島中学校ブロックの各小中学校においては、引き続き防災をテーマの一つとして土曜授業を展開していく。

また、市内各校においては「土曜日だからこそできること」「保護者や地域と一緒に取り組みやすいこと」について、地域性を考慮しながら考えていくことで土曜授業の更なる充実につとめたい。

## 鈴鹿市教育委員会

### <所在地>

〒513-8701 鈴鹿市神戸 1-18-18

TEL 059-382-9028

E-mail kyoikushido@city.suzuka.lg.jp

### I 研究のねらい

鈴鹿市では、子どもたちへの豊かな教育環境作りのため、平成 26 年度から土曜日の教育活動を実施している。

そして、本研究での主なねらいは以下のとおりである。

- 1 土曜日実施の利点を生かした教育内容の創造
- 2 地域力の発掘と活用
- 3 小中学校における系統的なキャリア教育推進
- 4 土曜日の教育活動に関しての地域保護者の理解促進
- 5 検討すべき課題の洗い出し

### II ねらい達成のための方策

1 中学校区単位で土曜日の授業実践校を 4 校指定し、「土曜日の授業コーディネーター」が学校間の連携を図りながら、中学校区における土曜日の教育活動の連絡調整を図り、外部人材の協力を得ながら取組を行い、小中学校が連携して進めるキャリア教育を実践の核として取り組む。

また、各学校の地域の特色に応じて、「土曜日の授業コーディネーター」を中心に、有効であると思われる土曜日の教育活動の事例収集を行い、検討する。

### III 研究の概要

土曜日の教育活動についての本市の考え方としては、

- 1 学校・家庭・地域の三者が連携し、役割分担

しながら社会全体で子どもを育てる。子どもたちに豊かな教育環境を提供し、その成長を支えることができるよう、取組を充実する。

- 2 地域と連携した体験活動や、豊富な知識・経験を持つ社会人等の外部人材の協力を得た取組などを、道徳や総合的な学習の時間、特別活動などの授業、学力補充などを通して「生きる力」をつける。

平成 26 年度は、土曜日の教育活動の試行の年と位置づけ、各関係機関と具体的な調整を図りながら、市内全 40 校に設置されている鈴鹿型コミュニティスクールを活用し、学校運営協議会等で保護者や地域の方と協議の上、学校の実情に応じて実施してきた。

平成 27 年度は、この考え方をもとに、引き続き「土曜授業」、「土曜の課外授業」、「土曜学習」の 3 つの形態に整理しながら、第 3 土曜日を基本とし、学校運営協議会で協議の上、原則年間 8 回程度実施している。

一方で、国の第二期教育振興基本計画において、キャリア教育の推進は重要課題のひとつとなっており、幼児期から高等教育まで各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育の充実が求められている。本市においても、「ものづくりを基盤として、夢を育むキャリア教育の推進」をテーマに、小中連携したキャリア教育の推進を図っている。しかし、発達の段階に応じて、学校の教育活動全体を通じた指導という視点で、本市のキャリア教育の取組をみると、まだ十分であるとは言い難い状況がある。そのため、小中学校に対しては、各教科等の中に「キャリア教育の断片」を見つけ出し、学習と自分の将来とを関係付けることのできる授業づくりや、教科の縦と横の連携を意識したカリキュラムマネジメントを推進していく必要がある。

そこで、本研究において、土曜日等に実施することの利点を生かして、小中連携したキャリア教育の効果的な指導方法やモデルカリキュラムの開発などを探る。

#### IV 具体的な取組・実践例

##### 1 実践校4校の実践事例

###### (1) 平田野中学校の実践事例

「平田野中ものづくり人材育成プログラム」の小中連携した取組として、校区の3小学校に技術・家庭科の教員が出向いて、「ロボット作り」の授業を行った。今年で3年目の取組である。科学部の生徒も作業の補助に入り、小学生は、はんだ付けを行ってロボットの回路を作り上げ、ものづくりの喜びを体験できる取組となった。

第2学年では、防災学習「中学生としてできること」として防災技術指導員を招き、地震に対する知識や災害が起こったときの行動等について学び、身の回りにあるもので災害時に役立つ便利グッズ（リュックサック等）を作る体験型の学習を行った。



###### (2) 国府小学校の実践事例

第6学年は、所有する車や住居、共に暮らす家族、働く姿等、身近な事柄から自分の将来に思いを巡らせながら「ドリームマップ作り」に取り組んだ。マップ作りを通して、「自分を大切な存在だと自覚し、自分を好きになり、夢に向かって努力し続けられる人になることが大切である」ことに気付いた。

第4学年の児童は、「いのちの授業」として、外部の方をゲストティーチャーに招き、聴診器で自分の心音を聞いたり、命の誕生について話を聞いたりしながら、「命」に対してじっくりと向き合い、感じることでできる時間となった。



###### (3) 庄野小学校の実践事例

第3学年の児童が、社会科「地域の伝統行事」の学習の一環として、古くから伝わる「庄野獅子舞」について、「庄野獅子連」として活躍している方々から、獅子舞に込められた願いや思い、獅子の舞い方等を教わった。

全児童や地域住民を対象に、ソフトボール元日本代表監督の宇津木妙子さんを招き、「夢の実現～努力は裏切らない～」をテーマに講演を開催した。講師から「夢をもち続け、何事も一歩動き出し、チャレンジすることが大切。」と伝えられた。講演後は、6年生児童を対象に、体育科「ベースボール型授業」としてソフトボールのノックを行った。



###### (4) 明生小学校の実践事例

第1、2学年は、JPIC読書アドバイザーによる出前授業を行い、音楽を効果的に生かした読み聞かせの学習を行った。

保護者や地域の方々を多数招いた明生文化祭では、全学年による学習発表会が行われた。その中で第2、3学年は、地域の方々とのふれあいや学んだことを発表するとともに、感謝の気持ちを伝えることができた。文化祭の後半では、平田野中学校吹奏楽部を招いた音楽鑑賞会が行われ、地域の先輩たちが奏でる美しく迫力ある音楽を楽しんだ。



#### 2 カリキュラム等検討委員会の開催

##### (1) 第1回 10月6日(火)

- ア 委員会メンバーの確認
- イ 地域人材(外部人材)の活用

ウ 各校の土曜授業に係る取組計画

エ 児童生徒向けアンケートの実施

【アンケート内容】

- ① 土曜日にも学習ができて良い。
- ② 平日の授業とは違った学習内容があって良い。
- ③ 地域の方、ゲストティーチャー、他の学校の先生等と活動することがあるので良い。
- ④ 生活や学習の課題を見つけ、自分の力で解決しようとしている。
- ⑤ 将来の夢や目標をもっている。
- ⑥ 学校や家庭での自分の役割について、責任をもって果たそうとしている。

(2) 第2回 ※日程の都合上、各校別にて開催

12月21日(月) 平田野中学校、明生小学校

12月22日(火) 庄野小学校

1月18日(金) 国府小学校

ア 児童生徒向けアンケート調査結果について

イ 2回目のアンケート調査実施について

ウ 各校の取組について

(3) 第3回 2月1日(月)

ア 各校の取組のまとめ

イ 成果と課題

## V 研究成果の検証

### 1 検証方法

土曜日の教育活動について、外部講師の関わりやキャリア教育等について、2学期と3学期に児童生徒アンケート調査を実施して、児童生徒の意識の変化を調査して、各校の実践と関連付けて、効果の検証を行う。

### 2 検証結果

検証結果は以下の通りである。

(1) 成果

ア 1中学校区において、どのようなキャリア教育を行い、どのような外部人材に出会い、土曜授業の取組をどのように進めているかを共有することで、各小中学校におけるカリキュラムを検討することができ、来年度の実践をより充実したものとするための計画を立てる1つの指標とすることができた。

イ 児童生徒は、外部人材と授業を行うことにより、学習が深まったり、新たな考え方に会ったりすることができた。

ウ カリキュラム等検討委員会においては、各校で活用されていた外部人材の情報を中学校区で人材バンクとして共有することが提案された。中学校区で同一様式の情報をもつことにより、来年度以降の情報共有、継続的な取組を円滑に進めることができる素地を作ることができた。

### (2) 課題

ア 今年度の実践校での取組を1つのモデルカリキュラムとして、どのように市全体の取組につなげていくかを検討する必要がある。

イ 土曜授業を含む土曜日の教育活動については、学校運営協議会で協議の上、年間計画を立てて実施してきたが、家庭、地域、外部団体等の理解、協力なくしては円滑な実施は難しい。これからも、取組の様子や本研究の成果等を、市広報やホームページ等を活用して広く発信して、実施について十分に理解を得る必要がある。

ウ 教職員の勤務においては、土曜日の振替を同一週で取得することが困難な状況があり、やむを得ず長期休業中での取得となる場合が多い。

## VI 次年度の取組方針

1 本研究の課題と市内小中学校への土曜日の教育活動に関するアンケートの結果を基に、本市の取組を検証する。

2 学校・家庭・地域の三者が連携し、役割分担しながら社会全体で子どもを育て、子どもたちに豊かな教育環境を提供し、その成長を支える必要がある。そのために、地域と連携した体験活動や、豊富な知識・経験をもつ社会人等の外部人材の協力を得た取組の一層の充実を図る。

## 津市教育委員会

### <所在地>

〒514-8611 津市西丸之内2 3-1

TEL 059-229-3243

E-mail 226-3164@city.tsu.lg.jp

### I 研究のねらい

子どもたちの土曜日における教育環境の充実を図るための方策の一つとして、平成26年度より、市内公立小中学校において土曜授業を実施している。

しかし、土曜授業の実施にあたっては、その実施方法や回数、内容等や保護者、地域、関係諸団体等との調整、教職員のサービスの問題など、様々な検討すべき課題がある。

そこで、子どもたちの土曜日の教育環境をより豊かにするという土曜授業の実施目的を充実するため、本年度も継続して研究を行うこととした。

### II ねらい達成のための方策

土曜日の授業実践校（以下、実践校とする）を3校指定し、各学校の実情に応じて実施する土曜授業の取組の成果と課題を検証することで、教育課程を充実させる方策を探る。

### III 研究の概要

地域や外部の人材を活用した学習サポーターの活用促進や外部講師を招いての講演会の開催、基礎・基本の定着をめざした教育カリキュラムの開発等、新たに指定する実践校において実践し研究を進める。

また、大学等の有識者を招いて土曜授業講演会等を開催し、実践校の中学校区を中心に、土曜授業の効果や方向性について学ぶ機会を設け、土曜授業の内容の充実および理解促進を図る。

## IV 具体的な取組・実践例

### 1 津市立南郊中学校の実践

全国学力・学習状況調査や学校独自で実施しているアンケートの結果から、家庭学習習慣の定着に課題があった。そこで、土曜日に通常の教科の授業を実施し、生み出された時間的余裕を一定期間の授業時数の平準化に活用した。

あわせて、その期間を家庭学習強化週間に設定し、家庭学習の手引きを配付して指導するとともに、放課後の補充学習会や地域と連携した「南郊ナイトスクール」を実施し、家庭学習の定着と充実を目指した取組を行った。

また、PTAと共催する行事を積極的に土曜授業として実施し、保護者と生徒が一つの課題を共有しながら、家庭での親子の対話が進むよう取り組んだ。

	期日	取組内容
土曜授業	4/18	1～2限：授業（保護者授業参観） 3限：PTA総会
	5/16	1～3限：授業 ※3年生は修学旅行の親子事前指導
	6/20	1～3限：授業
	9/12	1～2限：いのちの授業（PTA共催） 3限：学活
	10/24	1限：全校集会 2～3限：ネットモラル講演会（PTA共催）
	11/21	1～3限：授業※1年生2～3限、2年生3限：PTA学年行事
	1/16	1～3限：授業
	2/20	1～3限：授業 ※1年生2限：授業参観、3限：集会（PTAと合同） ※2年生2～3限：進路・修学旅行説明会（親子）
学習週間	6/17～6/30	第1回 家庭学習強化週間
	2/12～2/25	第2回 家庭学習強化週間
ナイトスクール	6/9～8/28	前期 南郊ナイトスクール（毎週火・金曜 全15回）
	10/2～11/20	南郊ナイトスクール 3年生特別講座（毎週金曜 全8回）
	12/15～2/23	後期 南郊ナイトスクール（毎週火・金曜 全15回）



(南郊ナイトスクールの様子)



(風童夢太鼓)



(ダンス発表会)

## 2 津市立久居西中学校

全国学力・学習状況調査の質問紙調査の地域との関わりの項目で、地域行事に参加している生徒の割合が全国平均と比べて高いが、具体的に地域に貢献したり、社会をさらによくするためにはどうしたらよいかと考えている生徒はまだまだ少ない。

学校教育目標「地域を愛し、夢に向かって、心豊かにたくましく生きる生徒の育成」の実現に向けて、人とのふれあいを大切に、体験活動や講話、伝統文化にふれる機会を通して、豊かな心や生き方を育成したいと考えて土曜授業に取り組んだ。

月	活動内容
6	芸術鑑賞「和楽器の世界へ」(三味線と尺八の演奏)
9	文化祭と地域の行事での発表に向けた「風童夢太鼓」の練習 榊原地区運動会で太鼓演奏
10	グリーン祭(文化の部)「100人太鼓」の演奏発表
11	人権講演会「いろいろな人権問題について」 稲葉地区ふれあいフェスタ文化祭で太鼓演奏 七栗地区文化祭で太鼓演奏、栗葉地区敬老会で吹奏楽演奏 榊原温泉マラソン
1	消費者被害を未然に防ぐための「消費生活出前講座」
2	スポーツ講演会「スポーツをすると心が豊かになる」

## 3 津市立草生小学校

「活用力」と「書く力」の育成を図るため、土曜授業の実施、地域や外部の人材を活用した学習サポーターによる『草生っ子チャレンジタイム』の実施、外部講師による保護者対象の講演会および校内研究会の実施、保護者と連携した家庭学習『チャレンジ』の在り方の検討に取り組んだ。

また、児童を対象とした調査を実施し、児童の学習意欲や学習習慣の実態および取組の検証を行った。

期日	活動内容
6/17 ～	草生っ子チャレンジタイム ※水曜日の第5限、年間8回(7/8、9/16、10/14、11/11、12/9、1/13、2/17)
6/20	保護者講演会「家庭と連携した学力向上の取組について」
12/21	国語科における活用力育成に向けた校内研究会(外部講師招聘)
11月 ～	家庭学習「チャレンジ」の実施



(草生っ子チャレンジタイム)



(保護者講演会)

## 4 カリキュラム等検討委員会の開催

国立大学法人三重大学教育学部の森脇健夫教授を委員長として、実践校3校の担当者及び教育委員会事務局員等によって構成する委員会を開催し、各学校の実践共有や次年度以降の方向性等について協議を行った。

<第1回：11/16、 第2回：2/4>

## V 研究成果の検証

### 1 検証方法

- (1) 実践校における質問紙アンケート調査
- (2) 指導主事の学校訪問による聞き取り調査
- (3) カリキュラム等検討委員会における調査結果分析

### 2 検証結果

検証結果は以下のとおりである。

#### (1) 成果

ア 南郊中学校における土曜授業の実施とそれに伴う家庭学習強化週間の取組及び南郊ナイトスクールの実施によって、生徒の学力や家庭学習に対する意識はわずかではあるが向上してきている。特に、生徒にとって身近な地域の方に関わっていただくことで、学校とはちがった場での「学び」に対してやる気を出し、主体的に学ぶことに喜びを感じているようである。

#### 学校（生徒・保護者）アンケート結果より

- 宿題を含め、毎日家庭学習をしている（66.6%）
- 定期テスト前（強化週間）は家庭でしっかり勉強している（88.4%）
- 学校は保護者が授業や教育活動を参観する機会をよく設けている（85.2%）
- 親子で話し合う機会や場がある（92.6%）

#### 南郊ナイトスクール参加者アンケート結果より

- ナイトスクールでの学習は楽しいですか（95.2%）

イ 久居西中学校の全校生徒を対象に実施したアンケート調査（2学期末）によると、「土曜日はゆっくり家で過ごしたい」と答えた生徒は約30%、「土曜日も友達と会えるので楽しい」「平日と変わらない」と答える生徒も約30%であった。「土曜授業がない方がよい」は、約10%と少なかった。平日ではできない体験活動が実施できたり、生徒の学習意欲が向上してきて、土曜授業で補充学習等の時

間があるとよいという意見もあった。

ウ 草生小学校では、児童を対象に全国学力・学習状況調査の質問紙調査を活用し、学習意欲や学習習慣に関する調査を実施した。

児童は、国語・算数の「活用力」を育てる問題を解くことに慣れ始め、「条件に合わせて自分の考えをまとめる（表現する）」「指示された内容を盛り込んで書く」「字数に合わせてまとめる」「主語・述語が文脈に合う」ことなど、いくつかの点に気をつけながら書くことにも慣れ始めてきたように感じる。

エ カリキュラム等検討委員会においては、各校の実践を交流することにより、土曜授業のあり方について、小中一貫の視点を踏まえ、土曜授業でどのような実践ができるのか協議をすることができた。

効果的な指導方法の検討までには至らなかったが、土曜日に通常の教科の授業を3限実施するのではなく、基礎・基本や発展的な課題に取り組む教育活動や伝統文化にふれる教育活動、保護者や地域の方々とともに行う教育活動など、多様な実施形態がありこれらをつなぎ合わせることで、地域の実情に応じ、9年間の学びを見据えた土曜授業に関する年間カリキュラムができることがわかった。

#### (2) 課題

ア 実施回数及び実施時期等について

津市においては、原則第3土曜日に土曜日授業を実施することとしている。しかし、各学校が地域の実情を考慮し、独自に土曜授業日を設定しているため、実施日及び回数において一律ではない状況にある。そのため、地域スポーツクラブなど関係団体との学校施設の利用に関する調整や大会等への出席の扱いなど、統一すべき方向が望まれる課題がある。

また、土曜日の教育活動の内容についても、これまでの経緯から地元の方々とともに活動を作り上げてきた地域や地域スポ

ーツクラブが充実した地域など、土曜授業だけでなく、土曜日の課外授業や土曜学習などが充実している地域が市内にあることも明らかになってきた。そのため、他機関との調整や土曜授業だけでなく土曜日の課外授業や土曜学習などを含めて、土曜日に学校が主体となって、子どもたちに何を提供することができるのか協議することが課題である。

#### イ 実施内容等について

教科の授業に加え、授業参観や講演会など、保護者や地域の方々に学校へ来ていただく機会を設定できた。

しかし、教育課程に位置付けた土曜授業の実施が、学力向上につながるものであるのかどうかについての検証はできなかった。

また、子どもたちに土曜日の豊かな教育活動を提供することをねらいとしているが、子どもたちの体調に対する危惧、家庭生活・部活動との兼ね合いなど、土曜日に授業を行うメリットがデメリットを勝るものになりえていない現状もある。

#### ウ 教職員の服務等について

学校長からの聞き取りの結果、「学校が主体となって土曜日ならではの活動を企画運営するには、実施に向けての準備やPTAや地域ボランティア等との調整にかなりの時間を必要とする。」「子どもたちの教育環境の充実を図るための方策の一つとして土曜日の教育活動を実施するという趣旨は理解できるが、学校現場の多忙化に拍車がかかるのではないか」、「教職員の勤務について、週休日の振替等、適切に行えるのか心配である」など、実施にあたっての教職員の服務について、心配をする意見が多くある。

週休日の振替等が、実施した日の属する週に週休日の振替等を取得することが困難な状況にあり、同一週内で週休日の振替等を行うことのできる環境の整備や事例の蓄積が課題である。

#### VI 次年度の取組方針

本年度の実施により、子どもたちに豊かな教育活動を提供することは一定程度できたが、従来から継続して残存している課題が解消されるまで至っていない現状にある。これらの点を踏まえ、次年度以降、土曜日の教育活動の効果的なあり方等について検討していきたい。

## 御浜町教育委員会

### <所在地>

〒519-5292 南牟婁郡御浜町大字阿田和 6120-1

TEL 05979-3-0526

E-mail m-kyouiku@town.mihama.mie.jp

### I 研究のねらい

当町内、小中学校において、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査の結果を見ると、生活習慣の乱れや、テレビやパソコン等の視聴等に多くの時間をとり、学習時間が大変少ない。また、運動においては、2極化が大きくなり、運動する児童生徒は、平日でも遅くまで運動し、土日には、大会や遠征に出るなど忙しい日々を送っているのに対し、スポーツクラブ等に所属していない児童生徒の運動時間は、大変少ないというのが現状である。こうした児童生徒の状況を鑑み、土曜日において、学校、家庭、地域が連携し、役割分担をしながら、多様な学習、文化やスポーツ、体験活動等の機会を設け、子どもたちにとって豊かな教育環境を提供するための方策を講じる。

### II ねらい達成のための方策

- 1 外部講師を招聘した「キャリア教育講演会」などを開催し、児童生徒の将来への夢や希望を育み、学習への意欲の向上を図る。
- 2 地域の人材を活用し、きめ細かな学習支援や体験活動をすすめる。
- 3 大学教授等の外部講師を招聘した授業研究会を持ち、教員の授業力の向上を図り、子どもたちの学力向上を図る。
- 4 読書推進にかかる講演会等を開き、家庭を含めた読書の推進に努める。

### III 研究の概要

土曜日の授業において、外部講師を招聘し、キャリア教育に関わる講演会をおこなったり、地域人材活用による児童生徒へのきめ細かな指導や野外活動の充実などを通し、児童生徒の学習意欲を高める。また、外部講師を招聘し公開校内研修会を開くなどし、教員の授業力の向上を図る。さらに、読書講演会など、地域・保護者の参加を含めて町をあげて読書推進に取り組み、土曜授業をきっかけとして、子どもたちの豊かな学びの環境を作り上げることを目指す。



### IV 具体的な取組・実践例

#### 1 御浜中学校の実践

10月17日(土)、株式会社てっぺん社長大嶋啓介さんを招いて講演会を行った。

大嶋啓介さんは、独自の「朝礼」により、飲食店を多角展開している。講演の中では、「テンションを高く保ち、あいさつをしっかりとる」「人生の差は思い込みの差。本気で行動しているかどうか」「中学生の可能性は、今の力の三万倍。」といった言葉に、生徒たちは感銘を受けていた。

講演中は、大嶋さんと生徒とのやりとりがあったり、生徒同士でのディスカッションし考えを深めあう時間があったりして、あっという間の時間であった。大嶋さんの話に、時には笑顔、時には真剣な表情で、誰もが最後までしっかりと耳を傾ける姿を見て、生徒一人ひとりがこれからの人生を歩んで行く中で、親への感謝の気

持ちを持ち、自分の夢や仲間を大切にする生き方を大事にして、様々な場面で、きっと輝きを放ってくれるものと思った。大嶋さんからは元気、やる気、本気のパワー、エネルギーの源をいただいた。

## 2 中学生議会の開催

社会科の学習の一環として、地方自治に関する学習を深めることを目的に、町内中学3年生全員による模擬議会を開催した。

生徒が議員として町長や教育長に一般質問を行い、町づくりについて提言を行った。これにより政治や選挙に関心を持ち、主権者として素晴らしい町づくりに参加しようというきっかけになったのではと考えている。また、同時に中学生を対象に「明るい1票、うれしい未来」という演題で真打落語家の三遊亭多歌介さんに講演をいただいた。生徒たちは、ユーモアたっぷりの話を楽しみながら、選挙の大切さや一票の尊さを学んでいった。



## V 研究成果の検証

### 1 検証方法

- (1) 保護者・児童生徒へのアンケートをとる。
- (2) 全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙の結果の考察
- (3) 各学校からの報告

### 2 検証結果

アンケートについては、2月中旬にとる予定である。また、全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙については、次年度のものをまわって考察をしたい。



### (1) 成果

9月に本事業を受託し、日が余りたっていないので、成果については、十分に検証はできていないが、各学校においては、昨年以上に、土曜授業において工夫をもって取り組んでいる。

### (2) 課題

- ア 生徒議会は、本物に近い形で町の議場を会場に行った。来年度以降も継続したいと考えているが、町内全校となると、移送が大変である。
- イ 児童生徒の実態、保護者の意向を十分把握すること。

## VI 次年度の取組方針

今年度の取組をさらに児童生徒の実態や保護者の意向を踏まえ、有意義なものになるよう取組を深めたい。

